

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「ことばでみちあんない」 教材名「ことばでみちあんない」

2 単元の目標

事柄の順序や共通点・相違点を理解できる。相手に伝わるよう、進む順序に沿って話す事柄の構成を考えられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事柄の順序や共通点・相違点を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるよう、進む順序に沿って話す事柄の構成を考えている。（A(1)イ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

道案内で相手が順に行動できるよう、目印と進む方向を選んで話す。話し手の左右と聞き手の向きをそろえる。学習指導要領のA(1)イを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

自宅の位置を使わず教師作成の架空の町の図を使う。出発点と向きをそろえ、聞き手が駒を動かして説明の順序を確かめる。おおむね満足できる状況は、相手に伝わるよう、進む順序に沿って話す事柄の構成を考えているという姿で捉える。使った言葉を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○出発点と目的地を図で確認する。	学習状況を見て支援する。
	2	○目印と進む順を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
	3 （本 時）	○相手に案内して動きを確かめる。迷った箇所の説明を直す。	知①・思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (3/3)

(1) 本時の目標

相手に伝わるよう、進む順序に沿って話す事柄の構成を考えられる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「相手に道を案内するとき、どの目印から、どの順に説明しますか」 【めあて】道案内で相手が順に行動できるよう、目印と進む方向を選んで話す。 〈予想される児童の反応〉 ・そこだけではどの場所か分からない。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「相手に道を案内するとき、どの目印から、どの順に説明しますか」 教師作成の架空の町の図で、出発点と向きをそろえる。話し手は目印と曲がる順をメモし、聞き手へ案内する。聞き手は聞いた順に駒を動かし、分からなかった場所を返す。話し手は動きと説明のずれを確認、目印や順序の言葉を直してもう一度案内する。 〈予想される児童の反応〉 ・そこだけではどの場所か分からない。 ・曲がる前に目印を言うと分かる。 ・聞いて動く順番が違ふところが見つかった。	自宅の位置を使わず教師作成の架空の町の図を使う。出発点と向きをそろえ、聞き手が駒を動かして説明の順序を確認める。 想定するつまずき：目印を省いて右左だけ言う、話し手の向きで説明する、早く話し過ぎる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 相手に伝わるよう、進む順序に沿って話す事柄の構成を考えている。(発言と学習記録) ◎知① 事柄の順序や共通点・相違点を理解している。(〔知識及び技能〕(2)ア) (使った言葉・音読や表記の確認)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・聞いて動く順番が違ふところが見つかった。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に教材名とめあて、その左に問い「相手に道を案内するとき、どの目印から、どの順に説明しますか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線に対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

